

サッカー競技における退場がゲームに与える影響について

水上 満暉（競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース）

指導教員 望月 聡

キーワード：サッカー，退場，数的不利，勝敗

1. 緒言

自身の経験から、選手が退場した試合における勝敗というのは印象に残る。サッカーにおいて退場してしまうと相手より人数が少ない中で残りの時間をプレーしなくてはならず相手より不利な状況になる。自身も退場した経験があるが、そのゲームではビハインドの状況を追いつき貴重な勝ち点を得ることができた。退場した時点で負けると考えていたので意外な結果であった。

そこで本研究では退場の起こったゲームの分析を行い、ゲームに与える影響を考察することで今後の現場にフィードバックしていくことを目的とする。

2. 研究方法

①退場が起こった試合をJ1リーグ、J2リーグ、関西学生サッカー1部リーグのそれぞれで集計し退場前と退場後の結果を比較し試合内容の傾向を分析する。

②2013年度関西学生サッカー1部リーグで退場が起こった10試合の映像からデータ収集する。支配率、シュート数、システムを中心に退場の前と後における変化を分析する。また、退場した側の得点、失点パターンを分析する。

③味方に退場経験のある本学サッカー部員10名にインタビューを行い、退場が起こったときの心境や戦術の変化など分析する。

3. 結果と考察

退場の起きた試合は計120試合であった。その内好転したのは14試合(約12%)、現状維持は75試合(約62%)、悪化したのは31試合(約26%)であった。

好転できたチームは支配率、シュート数ともに相手と同程度であった。悪化したゲームは支配率の低下、シュートを打てなかったことが原因と考えられる。失点については様々なケースがあったが、得点についてはカウンターやセットプレーによる得点が多いことから攻撃の選択肢が狭まり単調になることが分かった。

緊張が走り一体感が生まれるという回答が多く得られたが結果として好転させた例は少なかった。

4. まとめ

本研究で退場したチームが試合状況を好転させることは非常に難しいことが明らかになった。それゆえに退場自体を防ぐことが重要といえる。日ごろから退場しないためのフェアプレー精神を身につけ、反則をせずともボールを奪う技術が求められる。

5. 引用参考文献

- ・猪狩 真一(2011), 調べてもわからないサッカーのすべて, クレイン:P20-26